第8回やまぐち高校生県議会

会　議　録

午後１時開会・開議

議長（柳居俊学君）

これより第８回やまぐち高校生県議会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長開会宣言

議長（柳居俊学君）

本日のやまぐち高校生県議会は、次代を担う県内の高校生の皆さんに、県議会の役割や県行政への理解と関心を高めていただくことを目的として開催をするものであります。皆さん、どうぞよろしくお願いをいたします。

日程第１　会期決定の件

議長（柳居俊学君）

日程第１、会期決定の件を議題といたします。

やまぐち高校生県議会の会期は、本日１日といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（柳居俊学君）

御異議なしと認めます。よって、会期は本日１日と決定をいたしました。

知事挨拶

議長（柳居俊学君）

続きまして、村岡嗣政山口県知事から、御挨拶を頂きます。

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

高校生議員の皆さん、こんにちは。山口県知事の村岡嗣政です。

今日は、これからの県政について、皆さんと議論ができることを大いに楽しみにしてやってまいりました。この高校生県議会が皆さんにとっても、そして、我々県にとっても有意義なものとなりますように、しっかりと議論したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、今、私たちを取り巻く環境は、目まぐるしい変容を続けています。そしてコロナ禍を契機に、人々の意識、価値観、働き方、様々な面で大きな変化が生じています。

こうした中で、私は、最も大切な県民の皆様の命、そして健康、さらには暮らし、これらをしっかりと守っていかなければいけない、こうした思いを一層強くしています。感染症などに備えた医療の充実、そして大規模な自然災害への対策、国際情勢の変動に耐え得る、経済・食料・エネルギー、そうした安全保障の強化などは大変喫緊の課題であります。

また、我が国のデジタル化の遅れが浮き彫りとなってまいりました。あらゆる分野でデジタル技術を活用する取組が今まさに急速に進んで

いるところです。山口県でも全国に先駆けたデジタル改革を進めております。その一環として、児童生徒１人１台のタブレットの端末の導入、これを活用した一人一人に寄り添った教育の充実などにも取り組んでいるところです。

デジタル技術は、地方が抱える多くの課題の解決、そして新しいイノベーションの創出を可能にします。さらには都市と地方の格差を解消する大きな可能性を有していると考えています。地方においてこそ、この技術を積極的に活用していって、様々な現場での実装を進めていかなければなりません。

そして、さらに、テレワークなど、時間や場所に捉われない働き方が普及をして、人々の地方への関心も年々高まってきています。人口減少が加速している中で、山口県への新たな人の流れを創出していく取組も大変重要です。

一方で、国際的な課題も顕在化しています。地球温暖化による気候変動が様々な影響を及ぼしている中で、脱炭素社会の実現に向けた取組を進め、２０５０年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すこととされています。

工業が盛んで、産業部門からの温室効果ガスの排出量が多いこの山口県にとって、これを削減しながら産業を成長させていく、こうしたことは極めて難しい課題であります。しかしながら、積極的な温暖化対策によって、産業構造、また経済社会を変革をさせ、将来の大きな成長につなげていく、まさにピンチをチャンスに変える意識を持って、産業界と一体となって、その実現に挑戦をしていかなければなりません。

これからの県づくりは、こうした状況を踏まえて進めることが大変重要です。私は、様々な課題を克服するための施策を効果的に展開をして、県民の皆さんが、山口ならではの豊かさと幸福を感じながら、未来に希望を持って暮らせる、安心で希望と活力に満ちた山口県、これを実現したいと考えております。

そのためには、これを成し得る人材が不可欠です。そうした人材の確保に向けた人づくり、これを積極的に進めていきます。将来の予測が難しい、こうした時代にあって、ふるさと山口に誇りや愛着を持って、そして、高い志、行動力を持った未来を担う人材を育成していきたいと考えています。

そうした人材こそが、まさに皆さんのような若い人たちです。皆さんが未来を切り開いていくための挑戦を重ねていくことができる、そしてまた、夢を育み、その夢に向かって挑戦をしていくことができる、そうした環境をつくっていくことに全力を挙げていきたいと考えております。

皆さんには、この高校生県議会を機に、県の様々な取組への関心を高めて、そして、さらに積極的に様々なことに参加をしていただきたいと思っております。今日は、皆さんならではの夢のある御意見や御提案を頂けることを大いに期待をしております。

どうぞよろしくお願いします。

議長（柳居俊学君）

本日の会議に出席をしております参与員は、お手元に配付のとおりでございます。

日程第２　高校生議員の自己紹介

議長（柳居俊学君）

日程第２、高校生議員の自己紹介を行います。

高校生議員の皆さんは、最前列の下関・長門地域から地域ごとに順次登壇の上、自己紹介をお願いいたします。

〔下関・長門地域の議員登壇〕

下関・長門地域

下関・長門地域、長府高等学校１年、吉野楓香です。

大津緑洋高等学校３年、鴨川依乃梨です。

同じく３年、中村美咲です。

下関中等教育学校２年、重信晴輝です。

同じく２年、竹島藍子です。

同じく２年、山田奈緒です。

下関短期大学付属高等学校２年、畑紗姫愛です。

同じく２年、古谷亜桜祈です。

〔各員一礼〕（拍手）

【左から吉野楓香さん、鴨川依乃梨さん、
中村美咲さん、重信晴輝君、竹島藍子さん、
山田奈緒さん、畑紗姫愛さん、古谷亜桜祈さん】

〔宇部・萩地域の議員登壇〕

宇部・萩地域

宇部・萩地域、厚狭高等学校２年、安達心愛です。

同じく２年、山﨑俠吾です。

萩商工高等学校２年、坂本俊輔です。

同じく２年、中村雪菜です。

慶進高等学校２年、飯田和真です。

同じく２年、鍋山侑花です。

サビエル高等学校２年、池村汐音です。

同じく２年、加藤朱美です。

同じく２年、美濃しずくです。

同じく２年、吉永彩乃です。

〔各員一礼〕（拍手）

【左から安達心愛さん、山﨑俠吾君、
坂本俊輔君、中村雪菜さん、飯田和真君、
鍋山侑花さん、池村汐音さん、加藤朱美さん、
美濃しずくさん、吉永彩乃さん】

〔山口・防府地域の議員登壇〕

山口・防府地域

山口・防府地域、防府西高等学校３年、小嶺夢叶です。

同じく３年、林真誠です。

山口高等学校２年、伊藤大然です。

同じく２年、中村篤希です。

山口農業高等学校２年、三上祐飛です。

同じく２年、宮内風香です。

野田学園高等学校２年、沖村直哉です。

同じく２年、柘植衣花です。

同じく２年、村岡将多です。

〔各員一礼〕（拍手）

【左から小嶺夢叶さん、林真誠君、
伊藤大然君、中村篤希君、三上祐飛君、
宮内風香さん、沖村直哉君、
柘植衣花さん、村岡将多君】

〔周南地域の議員登壇〕

周南地域

周南地域、下松高等学校２年、秋本結衣です。

同じく２年、丸山恭禾です。

華陵高等学校２年、河村笑莉です。

同じく２年、小林佳穂です。

南陽工業高等学校３年、藤下新史です。

同じく３年、山本弥輝です。

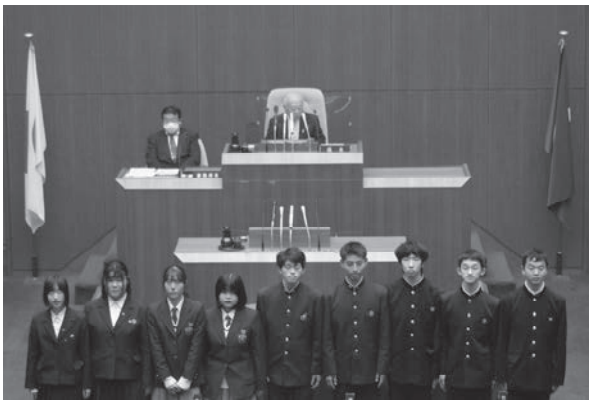
徳山高等学校２年、志熊龍之介です。

同じく２年、柴﨑湧人です。

同じく２年、清水一希です。

〔各員一礼〕（拍手）

【左から秋本結衣さん、丸山恭禾さん、
河村笑莉さん、小林佳穂さん、
藤下新史君、山本弥輝君、
志熊龍之介君、柴﨑湧人君、清水一希君】



〔岩国・柳井地域の議員登壇〕

岩国・柳井地域

岩国・柳井地域、周防大島高等学校２年、吉野晴香です。

同じく２年、髙橋侑奈です。

岩国工業高等学校３年、井上純です。

同じく３年、田中雄大です。

同じく３年、森下春花です。

同じく３年、山本和真です。

柳井商工高等学校３年、岡村峻青です。

同じく３年、河内美咲です。

高水高等学校２年、尾﨑純哉です。

同じく２年、三澤彩乃です。

同じく２年、安田真央です。

〔各員一礼〕（拍手）

【左から吉野晴香さん、髙橋侑奈さん、
井上純君、田中雄大君、森下春花さん、
山本和真君、岡村峻青君、河内美咲さん、
尾﨑純哉君、三澤彩乃さん、安田真央さん】

日程第３　高校生議員による質問

議長（柳居俊学君）

日程第３、元気な山口県をつくっていくための取組を議題とし、高校生議員による質問に入ります。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

厚狭高等学校、安達心愛さん。

〔安達心愛さん登壇〕（拍手）

安達心愛さん

山口県立厚狭高等学校２年生の安達心愛です。

私からは、元気な山口県をつくっていくための取組として、世代間交流をするための場所づくりについて、提案と質問をさせていただきます。

日本における家族の形態は、加速度的に変化してきています。かつては、家族の人数も多く、世代間を超えた人間関係を持つことができていました。しかし、現代では、単身や２人世帯が多くなり、家庭内での人間関係が単純化されてきました。

さらに、現在の山口県では、人口の減少と少子高齢化の進行が課題になっており、地域では、自治会・子供会の活動の衰退や、近所付き合いの希薄化が進んできています。実際、私の住む地区も子供の減少により、子供会がなくなりました。

このように、異世代が関わる機会が少なくなっていることは、社会全体の問題だと考えます。なぜなら、世代間交流は、社会性を育むために不可欠であり、交流することで元気や意欲、生

きる活力をもらえ、健康への効果が期待できるものだと考えているからです。個人が自ら交流していくことは大切ですが、自治体等が機会を設けることが必要ではないでしょうか。ただし、一方の世代だけが満足するのではなく、相互に得るものがある交流でなければならないと考えています。

そこで、私は若者と高齢者が協働して駅弁の開発を行い、それを県内の過疎化が進み利用が少なくなっている駅で売るという企画はどうかと考えました。材料は山口県の特産品を使用し、場所は公共施設を利用します。高齢の方々には、食材の提供や調理指導といった役割を担っていただくことができれば、就労支援にもつながると思います。また、若者から刺激を受け、生きがいにもなります。

一方、若い世代にとっては、目上の人とのコミュニケーションの中から様々なことを学び、熟練した技術や地域の文化継承の機会にもなります。私の考える企画によって、異世代間の交流の促進だけではなく、私が通う厚狭高校のそばを走る美祢線のような廃線の危機にある路線の活性化にもつながるのではないでしょうか。

そこで、山口県の世代間交流に関する施策について質問させていただきます。人間関係が希薄化した社会の中で、私たち若者はこのような交流を経験し、山口県の人・故郷のよさや文化・伝統を学んでいける機会を必要としています。

また、実際、私が住んでいる地域の高齢者から話を聞くと、自分の経験を次世代に継承する場が欲しい、若い世代と交流する機会が少なくて寂しい、などといった意見が上がりました。現在は、異世代が集う場所も限られており、全世代が一緒に利用したくなる施設の整備や参加しやすいイベントの企画を行っていく必要があると思います。

このような中、県としては世代間交流するための場所・機会について、どのように考えていらっしゃいますか。また、今後の展開がありましたらお聞かせください。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

厚狭高等学校、安達議員の御質問にお答えします。

安達議員がおっしゃるように、子供から高齢者までの幅広い世代間の交流、これは大変重要なことだというふうに思います。子供の健やかな成長、そして、高齢者等の生きがいの創出、こうしたことはもとより、地域の活性化にもつながる有意義なものであります。この促進を図ることは大変重要であるというふうに考えています。

山口県におきましては、全国に先駆けて県内全ての公立の小中学校、高等学校、そして、総合支援学校等に導入をしましたコミュニティ・スクール、この取組の中で、子供たちが地域住民の皆さんの協力を得て、地域の伝統文化を学んだり、地元の産業を体験するなど様々な形で交流が行われています。

また、中山間地域では、地域の活性化に向けて地元住民と大学生が連携・協働しながら、地域資源を生かしたアート作品を作るワークショップを行い、発表会を開催するなど、世代の壁を超えた協働の輪が広がっています。

しかし、残念ながら、コロナ禍でこうした交流や活動の多くが影響を受けました。まだコロナ前の状態には戻っていませんが、コロナを経験したことで、私たちは人と人とのつながり、そして、交流の価値・重要性を改めて認識をしたのではないでしょうか。コロナの終息はいまだ見通せていませんが、私はこうした認識の変化をてこにして、今後、様々な交流活動をコロナの前よりも活発化をさせて、地域の新たな活力の創出につなげていきたいと考えています。

このため、県におきましては、現在策定を進めております県の総合計画やまぐち未来維新プラン、この重点プロジェクトにおきまして、交流拡大による活力創出プロジェクトを掲げました。その中で、文化・芸術、スポーツ、県民活

動など様々な分野の交流活動を促進していくこととしています。

その一環として、例えば山口ゆめ花博など、これまで県民の元気を創出してきた山口きらら博記念公園を交流による活力創出の拠点として位置づけ、様々なイベントの実施や施設の整備を通じて、全ての世代が活発に交流する場や機会を創出をしていきます。そして、その取組やその効果を広く県内の各地に波及をさせていきたいと考えています。

私はこうした取組を通じて、若者だけではなく、あらゆる世代が交流・活動する機会を創出して、地域の元気と県全体の活力を高めていきます。

安達議員をはじめ、高校生の皆さんも、県のこうした取組にぜひとも積極的に参加をしていただいて、山口県を一緒に盛り上げていただきますようにお願いします。

また、安達議員御提案の駅弁の開発・販売、こうしたことは、地域の高校生、また高齢者の交流促進に加えて、駅や鉄道の魅力を高めて、地域全体の活性化にもつながる大変興味深い企画だと思って聞かさせていただきました。地域や学校の間で検討がさらに深まって実現に向けて進んでいくことを期待をしています。

ぜひとも世代間の交流がさらに進むことをこれから考えて、施策をしっかりと進めていきたいと考えております。

議長（柳居俊学君）

下松高等学校、丸山恭禾さん。

〔丸山恭禾さん登壇〕（拍手）

丸山恭禾さん

山口県立下松高等高校２年の丸山恭禾です。

私からは、山口県における校則運用や改定への動きについて２点質問させていただきます。

近年、ＳＮＳを中心に教育目的を達成するために必要かつ社会通念上、合理的と認められる範囲を外れている校則であるブラック校則が話題になっています。

朝日新聞の県内の記事の中に、県教委学校安全・体育課によると、県内でも一部の県立高校で、旅行や外泊をする際に学校へ届け出る、校外団体への加入や集会参加に学校の許可を義務づける、下着の色は白、ツーブロックは奇異な髪型として禁止などの校則がある。もともと髪の色が明るいなどの特徴がある生徒には、入学時に地毛証明書の届出を提出させる学校もあると記載されており、県内でもブラック校則と思われるものが確認されています。

この状況に対して、完全にプライバシーの侵害、だけど法律では訴えられないのが本当に悔しい、進学や就職のためだと言われますが、前髪が眉毛にかかっているだけで就職や進学ができないと思いませんといった意見もあります。確かに、学生であるという自覚を持ち、年齢に相当した服装を心がけることもマナーの視点で大切だと思います。

しかし、さきに挙げたとおり、中には社会的に理解の得にくい校則や時代にそぐわない校則があるのが現状です。また、県教育委員会は昨年７月に校則見直しに関して、見直しは各校の実情に応じ、保護者、生徒、地域と十分に話し合った上で判断されるべきだと述べています。

そこで質問です。校則について、県内の学校で見直されている一方、まだブラック校則が残っている現状もあります。校則の運用や改定を全県に広めていくためにどのような手だて、対策をされますか、お伺いします。

また、校則運用や改定には、さきに述べた県教育委員会のお考えのように、保護者、生徒、地域と十分に話し合って改定されることが大切だと考えます。そのため、校則の運用や改定にもっと保護者、生徒、地域が関われるように整

備することが必要です。例えば、学校単位での校則の公開や、保護者、生徒、地域、教員で構成される委員会の設立などです。校則の運用や改定には少なからず先生方の考えが入っています。その中で、私たち生徒にも発言する機会があれば、より健全な学校運営に近づくと考えます。また、校則の公開で保護者や地域の方の参画も可能になるのではないでしょうか。こうした動きの促進には県の方の協力が不可欠です。

そこで質問です。今私が提案した案の実現についてどのようにお考えでしょうか。また、提案の改善策などがあればお聞かせください。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

繁吉教育長。

〔教育長　繁吉健志君登壇〕

教育長（繁吉健志君）

下松高等学校、丸山議員の校則運用や改定への動きについての２点の御質問にお答えします。

まず、校則の運用や改定を全県に広げていくための手だて、対策についてのお尋ねです。

校則は、生徒の皆さんが健全な学校生活を営み、よりよく成長していくための行動の目安として、各学校において定められており、皆さんが学校生活を送る上で重要な役割を果たしています。

また、その内容については、学校・地域の状況や時代の進展等を踏まえ、絶えず積極的に見直すとともに、その運用においては、生徒の皆さんが校則を自分のこととして捉え、自主的に守っていくようにすることが大切です。

このため、県教育委員会では、昨年６月、各高校に対して改めて校則の見直しや運用についての考え方を示し、全国の教育委員会や学校における取組事例を紹介しながら見直しに取り組むよう依頼をしたところです。

また、校長や教頭、生徒指導の担当教員を対象とした研修会等において、絶えず校則の見直しを行う機会を持つことや生徒が自主的に校則を守ろうとする意識を養うことなどについて助言をしているところです。

県教委としましては、今後も継続的に各高校に働きかけ、校則の適切な運用や改定の取組を全県に広げてまいります。

次に、丸山議員が提案された校則の運用や改定に関する案の実現についてのお尋ねです。

校則の運用や改定は、丸山議員が言われるように、各学校の実情に応じ、生徒・保護者・地域等で十分に話し合った上で行うことが大切であると考えています。現在、県内の多くの高校においては、校則について生徒総会で生徒同士が議論したり、学校運営協議会で保護者や地域の方々が協議していますが、県教委では、生徒の皆さんの思いをより一層反映させるため、学校運営協議会に生徒が参加し、保護者・地域の方々と一緒になって話し合う機会をつくるよう、各学校に働きかけているところです。また、学校関係者に校則を広く知っていただくことは大切なことであり、その方法については、国の考え方や他県の取組等も参考にしながら、今後、各高校に助言をしていきます。

県教委としましては、今後も県内の高校において、校則が適切に運用されるよう取り組んでいきますので、丸山議員をはじめ、高校生の皆さんも、校則を自分のこととして捉え、校則に関する協議等に主体的に参加をしていただき、豊かな学校生活を送られることを期待をしています。

議長（柳居俊学君）

下関中等教育学校、竹島藍子さん。

〔竹島藍子さん登壇〕（拍手）

竹島藍子さん

下関中等教育学校２年、竹島藍子です。

私からは、県立公園内の遊具整備に関する質問と、子育て・教育に対する山口県の姿勢について質問をさせていただきます。

１点目に、県内に５か所ある山口県立の都市公園についての質問です。

今回私たちは萩ウェルネスパークと維新百年記念公園にて現地調査を行い、様々な問題点を発見しましたので報告いたします。

まず萩ウェルネスパークでは、遊具の整備に多くの気がかりがありました。例えばターザンロープの飛びつく位置は高校生の私の胸のあたり１３０センチほどの高さにあり、小さな子供が安全に利用することはできません。

また、ブランコ２席のうち片方が損失しており、さらに残ったもう１つも、小学校３年生になる私の妹が乗って遊ぶことができないほど傾いた状態でした。

もう一方の、維新百年記念公園においても危険箇所があります。調査を行ったのはよく晴れた夏の日でしたが、滑り台の滑降部、滑り面が金属製で非常に高温となり、男の子がお尻の痛みを訴えているのを目にしました。高温注意の張り紙があるものの振り仮名は振られておらず、また子供の視点では見えづらい高さに掲示されていました。いずれの公園内においても、十分な安全対策と遊具のユニバーサルデザイン化がなされていないという印象がぬぐえません。

そこで１点目の質問です。子供が安全に遊べる、そして保護者の方も安心して利用できる県立公園の運営のために、これらの改善を行っていただくことは可能でしょうか。

２点目に、子育て・教育に対する山口県の姿勢について質問です。

やまぐち維新プラン、１０７ページでは、理想の子供の数と実際の子供の数に差が生じていることを既に御指摘されておられますが、依然としてこれまでの県の取組によって状況が改善されたとは言えない状況です。

兵庫県明石市が、子供の医療費無償化や第２子以降の保育料の完全無料化など、独自の改革的な取組によって９年連続で人口増加を達成しているという報道は記憶に新しいことと思います。市レベルの取組を単純に県全体に当てはめることはできませんが、結婚から子育てまでの切れ目のない支援を充実させるには、子育て支援関連予算の大幅な増額が望まれます。

さらに、先日の事前学習会にて総合企画部政策企画課より配付していただいた資料で、山口県公立学校での教員志望者の減少、採用倍率の低下という窮状を知り、これも大きな課題の一つであると私たちは考えました。教員の待遇を厚くし、より多くの熱意ある先生方に山口県で働きたいと考えてもらうことが必要です。

しかしながら、その一方で、維新プラン第５章、１７０ページでは、教員の定数削減、給与水準の引下げについて言及されていることに驚きました。

以上を踏まえ、２点目の質問です。これから県としてどのように子育てと教育にまつわる状況を改善していくおつもりか、方針をお聞きしたいと思います。

子供は国や県の未来そのものです。山口県がはっきりと、子供と教育を大切にするという姿勢を示し、未来に投資する県であり続けてほしいと切に願うばかりです。

以上２点についてお尋ねいたします。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

下関中等教育学校、竹島議員の御質問のうち、私からは子育てに対する山口県の姿勢についてのお尋ねにお答えします。

少子化の進行は、社会経済の根幹を揺るがしかねない喫緊の課題です。その流れを変えて、安心して子供を生み育てることができる環境づくりを進めることが極めて重要であると考えています。このため、私は現在策定をしているやまぐち未来維新プランにおいて、結婚、妊娠・出産、子育て応援、これを重点的に推進するプ

ロジェクトに位置づけ、子供と子育てに優しい社会づくりに向けた取組、そして、各段階に応じた切れ目のない支援を進めることにしています。

具体的には、まず企業や関係団体等で構成するやまぐち子育て連盟、これを設立して、私自らキャプテンとして先頭に立って、子育て県民運動を展開するとともに、民間の資金を活用したファンドを創設をして、子育て支援団体の活動を支援する。そうしたことなどによって、社会全体で子育てを応援する取組を既に進めているところです。

また、身近な場所で子育てに関する幅広い相談ができるように、県内の約１５０か所の地域子育て支援拠点を活用して、育児相談に加えて、妊娠・出産等の相談にも対応できるやまぐち版ネウボラを推進しています。

さらに、若い世代が気軽にいつでも子育てに関する相談ができるような仕組みをつくることも重要です。今年度から、ＬＩＮＥアプリを活用して２４時間、３６５日対応する子育てＡＩコンシェルジュ、この運用開始をしたところであります。

子育て世帯に寄り添った支援の充実に努めているところです。

こうした取組に加えて、安心して子育てができるように、本県独自に多子世帯への保育料の軽減などの経済的な支援を行っております。

こうしたこととともに、保育所や放課後児童クラブ等の計画的な整備も進め、保育サービスの充実などの子育て環境の整備を進めていきます。

私は、子育て支援は未来への投資であると考えています。若い世代の方々に、安心して子供を産み育てていくなら山口県と、心から思っていただけるように、全力で取り組んでまいります。

竹島議員をはじめとした高校生の皆さんにも子育てしやすい環境づくりにぜひ御協力をしていただきますように、お願いいたします。

議長（柳居俊学君）

和田土木建築部長。

〔土木建築部長　和田　卓君登壇〕

土木建築部長（和田卓君）

県立公園内の遊具整備についてのお尋ねにお答えします。

県では、遊具を子供にとって安全で楽しく利用していただくため、国のガイドラインに基づき遊具の点検等による対応を適切に実施するとともに、必要に応じて注意喚起も行っているところです。

具体的には、日々の目視による点検に加え、定期的に専門技術者による詳細な点検を実施し、御指摘のブランコのように異常が発見された遊具については、状況に応じて利用の中止や修繕等を行うこととしています。

また、ターザンロープのように一定の年齢以上の利用が推奨される遊具については、その対象年齢を示すとともに、滑り台のように夏場の晴天時等に熱くなるおそれがある遊具については、やけど等に関する注意喚起を表示した上で、適宜利用を中止するなどの措置を行っているところです。

こうした注意喚起については、主に保護者向けに子供の危険な行動に対して注意し、遊具の安全な利用を指導していただくために表示していますが、竹島議員の御意見を踏まえ、子供にも分かりやすく伝わるよう工夫してまいります。

また、障害の有無や年齢、性別にかかわらず多様な人々が一緒に遊ぶことができるインクルーシブ遊具について、先月、山口きらら博記念公園で試験的に設置し、実際に遊んでいただく企画を実施したところであり、その成果も今後の遊具整備に生かしていく考えです。

県としては、今後とも誰もが安心して楽しく遊べる公園づくりに取り組んでまいりますので、竹島議員をはじめ高校生の皆さんには、ぜひ利用者の視点からの御提案をいただきますようよろしくお願いいたします。

議長（柳居俊学君）

繁吉教育長。

〔教育長　繁吉健志君登壇〕

教育長（繁吉健志君）

教育に対する山口県の姿勢についてのお尋ね

にお答えします。

山口県では、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向け、全ての公立学校に導入したコミュニティ・スクールの仕組みや、１人１台タブレット端末等のＩＣＴ環境を最大限に活用した取組を進めることなどにより、皆さんの豊かな学びの充実に取り組んでいます。

こうした全国に先駆けた取組を進める上で、皆さんと日々接する教員の果たす役割は大変大きく、竹島議員の言われるように教員採用試験の志願者減少は、県教育委員会でも大きな課題の一つとして受け止めています。

このため、高校生や大学生を対象に、山口県で教員として働くことの魅力ややりがいについて若手教員が直接伝えるセミナーを開催したり、教員を志望する大学生を対象とした本県独自の教員養成塾を実施したりするなど、熱意ある志願者の増加に努めているところであり、引き続きこれらの取組の充実を図っていきます。

県教委では、今後、より質の高い学びの実現に向け教員の人材確保に努めるとともに、山口県の強みを生かした教育を一層進めてまいりますので、竹島議員をはじめとする若い皆さんには、ふるさと山口に誇りと愛着を持ち、本県の未来を担う人材に成長し活躍していただくことを期待しています。

議長（柳居俊学君）

山口高等学校、伊藤大然君。

〔伊藤大然君登壇〕（拍手）

伊藤大然君

山口高等学校２年伊藤大然です。

私は高校入学時に広島県から引っ越して山口高等学校へ入学しました。それから１年、山口県は自然に囲まれ地域間での交流も盛んな場所だと知ることができました。

一方で、多くの課題にも気づかされました。その中でも特に大きい課題は高齢化です。実際に本県では全人口に対して半数に近い割合で高齢者の割合が増加しています。このような高齢化への取組も必要なのはもちろんですが、高齢化が進んでいくからこそ、高齢者がよりよい暮らしを送ることができるまちをつくり上げていくことも、また重要であると考えました。

そこで私は、２つの質問をさせていただきます。

１点目は高齢者の免許返納後の交通手段についてです。山口県では今年の８月末時点で、交通死亡事故における高齢ドライバーの割合が４７．４％と全世代の中で最も高く、積極的な免許返納が推進されています。

ただ、本県は他県と比べて公共交通機関が充実しておらず、生活必需品の買物や通院など返納後の生活への支障が大きいという現状があり、免許を返納しやすい環境ではないと言えます。

そこで昨年、私は総合的な探究の時間で、高齢者の免許返納後の交通手段に焦点を当てて探究活動を行いました。地域の高齢者の方たちにアンケートを行い、免許返納率や返納後の交通手段について調査を行いました。

その結果として、車に代わる公共交通機関の利用に前向きな姿勢を示す高齢者の割合は低く、返納後の生活に不安を抱く声が多く集まりました。加えて、この探究活動を通じてシニア層の就業意欲が高まっていることも分かりました。職場までの交通手段の充実化は、地域を支える担い手としてのシニア層の活躍の場を創出する可能性も期待できます。

以上を踏まえ、高齢者が利用しやすい交通機関を整備することは、高齢者が暮らしやすい元気な山口県をつくり上げていく上で大きな意味を持つと考えます。

そこで、１つ目の質問です。

山口県として高齢者が免許返納後に活用しやすい交通機関や交通システムの充実について具体的な取組をお考えでしょうか、お聞かせください。

２点目は若者との関わり方についてです。本県ではやまぐち元気生活圏という取組が行われています。この取組は高齢化の割合が増加した中山間地域での人手不足などを、若者の力を借りてカバーしていくというものです。

メリットとして、集落の枠を超えた範囲で日常生活に必要な機能やサービスが拠点化されることによって、高齢者を含めた幅広い世代が共に暮らしやすい環境が生まれるということが上げられます。

しかし、現状ではこのやまぐち元気生活圏の認知度は低く、特に若者に対しての認知が行き届いていないと考えます。学校との連携も見据え、若者に届く広報活動を図り、認知度を高めていくことで、この取組に携わる若者が増え、中山間地域のみならず山口県全体の活性化につなげることができます。

そこで２つ目の質問です。

若者へのやまぐち元気生活圏の認知度を向上させるための具体的な取組をお考えでしょうか。お聞かせください。

以上、２点について質問させていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

山口高等学校、伊藤議員の御質問のうち、私からは高齢者の免許返納後の交通手段についてのお尋ねにお答えします。

全国より早いスピードで人口減少や少子高齢化が進む本県において、高齢者が生涯にわたって地域で活躍するためには、免許返納後における就労等の活動のための移動手段を確保することが大変重要です。

このため、私はバリアフリーの観点も踏まえながら地域の実情に即して、高齢者にとって利便性の高い公共交通の確保・充実を図っていくことにしています。

具体的には、各市町において利用者の予約に応じて運行されるデマンド型乗合タクシー等の導入や運行などの取組を支援をしているところでありまして、効率的で利便性の高い移動手段の確保に努めているところです。

また、ノンステップバスの導入など公共交通機関のバリアフリー化を進めるとともに、交通系ＩＣカードの導入や運行状況が一目で把握できるバスロケーションシステムの導入など、高齢者が安心して利用できる環境整備への支援にも取り組んでいます。

さらに、今後各地域において、ＡＩを活用したデマンド型乗合タクシーや自動運転など、高齢者の多様なニーズに対応できる新たな移動サービスの導入が一層進むよう、先進的な取組事例等の情報提供や導入に向けた助言などの取組を行っているところです。

私は、今後ともこうした取組を進めることにより、免許返納後の高齢者が利用しやすい地域公共交通の確保・充実を図ってまいります。

伊藤議員をはじめ高校生の皆さんも、高齢化の進む本県の様々な課題解決に向けて、これからも柔軟な発想で対応策を考えていただくようにお願いします。

議長（柳居俊学君）

松岡総合企画部長。

〔総合企画部長　松岡正憲君登壇〕

総合企画部長（松岡正憲君）

やまぐち元気生活圏の認知度向上についてのお尋ねにお答えします。

中山間地域においては、商店の廃業や路線バスの廃止等により日常生活に支障を来す地域もあることから、県では広域的な範囲で、集落機能や日常生活を支え合うやまぐち元気生活圏づくりを推進しています。これまでに中山間地域のある全１８市町が取組に着手し、現在７１地域で具体的な活動が進められています。

伊藤議員が暮らしておられる山口・防府地域においても、空き店舗を活用したミニスーパー

の運営や移動販売の実施、ＳＮＳを活用した災害情報やイベント情報の発信など、地域団体等が中心となった様々な活動が展開されています。

こうした中、さらなる元気生活圏づくりの推進に向けては、その認知度を高め、皆さんのような若者や企業等を含めた幅広い人材の力を結集して進めていくことが重要です。

このため県では、ホームページや特設サイトで中山間地域の魅力を発信するとともに、新たな地域づくりの担い手を確保・育成するためのシンポジウムや研修会を開催しています。

また、県内の大学生等と連携し、特産品開発や交流促進など、若者の行動力や柔軟な発想を生かした地域づくり活動も進めています。

今後の認知度向上に向けては、議員の御提案を踏まえ学校等との連携を一層強化し、中山間地域に対する理解を深めていただくための県政出前トークなどの取組を積極的に実施していきます。

また、若い世代に効果的なＳＮＳを活用した情報発信など、若者に届く広報の充実を図り、中山間地域を支える人材の創出・拡大につなげてまいります。

議長（柳居俊学君）

周防大島高等学校、吉野晴香さん。

〔吉野晴香さん登壇〕（拍手）

吉野晴香さん

山口県立周防大島高校２年、吉野晴香です。

私からは、福祉と人口減少対策についてお尋ねします。

本県の高齢化率は令和３年度で３５．０％と、全国平均よりも６．１ポイント高く、全国第３位の高齢化率となっており、他県に先行して高齢化が進んでいます。

また、年少人口や生産年齢人口の減少が大きいことから、２０４０年には高齢化率が３８．６％となり、今後一層の高齢化が進むことが予測されています。中でも独り暮らし高齢者や認知症高齢者の増加が懸念されています。

そのような中にあって、私の住む周防大島町の高齢化率は、令和３年５５．３％と、全国及び山口県を大きく上回っています。

しかし、私は高齢化そのものが問題ではないと考えます。私は今、周防大島高校地域創生科で福祉を学んでいて、授業の中で何度か介護施設実習を行いました。お年寄りと触れ合う中でふと考えました。高齢化が進んで問題だと聞いて、お年寄りはどのような気持ちになるだろうと。私であれば、みんなに迷惑をかけているようで心苦しくなるでしょう。

問題はお年寄りの割合が増えることではありません。年齢を重ねても、その人らしい豊かな暮らしが送れるようになるための社会の支えが不足しているということが問題なのではないでしょうか。

そこで、１つ目の質問です。

お年寄りが安心して暮らすためには介護人材の充足は不可欠です。一方で介護を必要とする人やその家族を支える介護従事者の労働環境の課題は多く、介護人材の不足が大きな社会問題となっており、加えて、求められる介護の内容も年々多様化・高度化し、それに応えられる人材の養成が急務となっています。介護人材の不足数は２０３５年にはおよそ３，３００人に上ります。こうした状況を打開するために、県はどのような対策をお考えでしょうか。

次に、人口減少対策についてです。

令和元年の山口県の育児休業取得率は、女性が９８．５％、男性が１０．９％となっており、全国と比較するとやや高い水準ですが、男性の取得率が非常に低い状況です。その背景には、育児休業を取得する際の高いハードルが解消さ

れていないことが考えられます。周囲の人に話を聞くと、出世に影響が出るのではないかといった心配や、育児休業を取得することによって所得が減ることへの不安、業務のしわ寄せが同僚に回ってしまい周囲に迷惑をかけるといった声が上がりました。

また、自分の家庭の理想は夫が外で働き妻が家を守ることだといったアンケートに対し、賛成の割合が４９．２％と固定的役割分担意識が強いという調査結果があります。

そこで、２つ目の質問です。

山口県では村岡知事自らイクボス宣言を行い、男性の育児参加を率先し、安心して出産・育児ができる環境づくりを支援しておられます。そうした活動に加えて、今後さらに男性の育児休業取得率を上げていくための具体策と、県民の出産や育児に対する意識を変革するために、どのような対策をお考えでしょうか。

以上の２点について質問させていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

周防大島高等学校、吉野議員の御質問のうち、私からは人口減少対策についてのお尋ねにお答えします。

少子高齢化と人口減少が進む本県においては、県民誰もがその個性と能力を十分に発揮し、男女が共に生き生きと活躍できる社会を実現することが重要です。

このため私は、男女が共に仕事と子育ての両立を実現できるよう、出産・子育てに参加する意識改革と出産・子育てしやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

私も子を持つ親として、男性が家事や育児に参加することが重要だと考えております。私自身が妊婦体験をした動画ですとか、夢の中で夫が妻と入れ替わって、その夫が夫婦が共に家事を行う重要性を身を持って実感する動画等によって、男性の家事・育児への協力の必要性の発信を行っています。

また、夫婦で協力して子育てに取り組むという意識の醸成のために、子育て中の父親の育児体験談を聞けるセミナー等の開催ですとか、子育てに役立つ情報を盛り込んだ「お父さんの育児手帳」、これも妊娠された御家庭全てに配付をする。そうした取組も行っているところです。

そして次に、出産・子育てしやすい職場環境づくりに向けては、私自ら率先してイクボス宣言を行いました。子育て応援企業の登録の拡大やイクボス表彰などを行って、子育て応援の機運が高まるように取り組んでいるところです。

こうした中で、育児・介護休業法が改正をされ、男性が柔軟に育休を取得できるようになりました。こうしたことから、県としても男性の育休取得率が上昇するように、企業の取組を支援しているところです。

具体的には、山口しごとセンターに配置しているアドバイザーや専門家が企業訪問を行って、デジタル技術を活用した業務改善やテレワークの推進などの働き方改革を進めています。

こうした取組により職場環境が改善され、男性の育児休業の取得の増加や社員の離職率の低下にもつながる事例が出てきていることから、シンポジウムなどを開催して、こうした成功事例のＰＲや他の企業への普及を図ってまいります。

そしてまた、多くの企業で男性の育児休業の取得が進むように、企業に支給する奨励金の予算額を昨年度の２倍以上に拡大をしたところです。

私は、人口減少の克服に向けて、仕事と子育ての両立の実現に取り組んでまいりますので、高校生の皆さんもそれぞれの立場で、人口減少が続く本県の課題やその解決策について考えてみてください。

議長（柳居俊学君）

弘田健康福祉部長。

〔健康福祉部長　弘田隆彦君登壇〕

健康福祉部長（弘田隆彦君）

介護人材の確保・養成についてのお尋ねにお

答えします。

お年寄りが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、質の高い介護サービスを安定的に提供していくことが大変重要です。

こうした中、吉野議員お示しのとおり、高齢化の進行等により介護人材の不足が見込まれていることから、県ではサービス提供の要となる人材の確保・養成を図るため、働きやすい職場環境の整備や職員の資質の向上等に取り組んでいます。

具体的には、まず職場環境の整備に向けては、事業者の主体的な取組を促すため、施設長を対象とした研修を実施するほか、労働環境の改善や人材育成に積極的に取り組む事業所を、県が働きやすい介護職場として認証しており、引き続きその拡大に努めてまいります。

また、職員の資質向上に向けては、医療的ケア等の専門的な知識や技術を習得する研修や、経験年数等に応じてスキルアップできる研修を実施するなど、一人一人の状態に応じた適切な介護のできる人材の養成に取り組んでいます。

さらに、小中学生や高校生等を対象とした介護職場の体験や介護職員による学校での出前講座等を実施し、介護職のやりがいや魅力を知っていただくことで、将来の担い手の育成につなげています。

こうした中、吉野議員のように高い志を持って福祉を学ばれている若者の存在を、非常に頼もしく感じています。県としましては、お年寄りがその人らしく安心して生き生きと暮らせるよう、介護サービスのさらなる充実に取り組んでまいりますので、高校生の皆さんは介護職を将来の選択肢の一つとして考えていただけることを期待しています。

議長（柳居俊学君）

この際、暫時休憩をいたします。再開は午後１４時３０分の予定でございます。

午後２時１４分休憩

午後２時３０分開議

副議長（二木健治君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第３　高校生議員による質問

副議長（二木健治君）

日程第３、元気な山口県をつくっていくための取組を議題とし、質問の議事を継続いたします。

慶進高等学校、飯田和真君。

〔飯田和真君登壇〕（拍手）

飯田和真君

慶進高等学校２年の飯田和真です。

私からは、小中学生の不登校の増加に対する改善策について、３点質問をさせていただきます。

山口県の令和２年度の不登校児童生徒の人数は、小学生が６１１人で前年よりも１１１人増加、中学生が１，４５５人で前年よりも１３３人増加となっています。また、日本全国での小中学校の不登校児童生徒は、前年に比べ、約１万５，０００人増加しています。

不登校の要因については、無気力・不安や友

人関係などと言われていますが、私は、増加している理由の一つにインターネットの普及があると考えます。最近はスマートフォンを所有する小学生が増え、子供たちの生活がスマホ中心になる危険性を危惧しています。スマホ上でゲームやＳＮＳに夢中になることで生活のリズムを崩したり、配信動画内での誤った情報を真に受けて安易な選択をしたりすることが不登校の原因の一つとなっているのではないでしょうか。

そこで、１つ目の質問ですが、このようなスマホの依存状態が原因と考えられている不登校の問題に対して、山口県として取り組んでいること、または今後取り組んでいく予定のことはありますでしょうか。

現在学校では、スクールカウンセラーによるカウセリングを実施したり、保健室登校を可能にしたりするなど、様々な対応がされています。

ただ、不登校の状態となると、家族以外の外部の者と関わる時間が減り、焦りや挫折感などの感情を自分の中だけで解決しようとしてしまいます。そんなときに自分の落ち着ける場所で先生や友人などの温かい言葉を聞けるということは、とても安心できるものがあると思います。

私たちは、その手段の一つとして、インターネットを利用してリモートで先生やカウンセラーの顔を合わせながら定期的に面談したり、オンラインで学校の様子を配信し、家庭内で授業に参加したりする方法が取れるのではないかと考えました。これらの方法で不登校状態の子供が安心を感じ、その孤独感や焦りを和らげることができるのではないでしょうか。

そこで、２つ目の質問ですが、インターネットを用いて子供たちと外部の者がコミュニケーションを取る取組を山口県として実施していますでしょうか。

近年、国は、不登校の児童生徒を対象に特別な教育課程を編成できる不登校特例校の設置を全国的に推し進めています。

不登校特例校は、フリースクールなどとは異なり、公的な教育機関であるため、元の学校から転学でき、通常の小学校・中学校・高校等と同様の卒業資格を取ることができます。現在、全国には公立・私立合わせて２１校の特例校が設置されていますが、山口県にはまだ設置されていません。

そこで、３つ目の質問ですが、県として、今後、不登校特例校を設置する考えはありますでしょうか。また、設置に際しての課題等がありましたら、お聞かせください。

以上、３点質問します。御回答をよろしくお願いします。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

副議長（二木健治君）

繁吉教育長。

〔教育長　繁吉健志君登壇〕

教育長（繁吉健志君）

慶進高等学校、飯田議員の、本県における不登校児童生徒の増加に関する３点の御質問にお答えします。

まず、スマートフォンへの依存状態が原因と考えられる不登校問題に対する、本県の取組についてのお尋ねです。

インターネットの普及により、児童生徒を取り巻く環境が大きく変化する中、飯田議員の言われる、スマートフォン等によるインターネットへの依存については、国の調査においても不登校の要因の一つとして挙げられており、この問題の解決に向けては、これからのデジタル社会において、児童生徒の皆さんが自ら判断し、自律した適切な行動を取ることができるよう、様々な取組を進める必要があると考えています。

このため、各学校では、警察や通信業者と連携したケータイ安全教室やロングホームルーム等において、ネット上の誤った情報に振り回されないことなど、ＳＮＳへの適切な関わり方について学ぶ機会を設けています。

また、児童生徒の皆さんがスマートフォンに依存しないようにするためには、保護者の方々と協力して取り組む必要があり、県教育委員会では、スマートフォンの利用時間や置き場所等、家庭でのルールづくりに関する資料を作成し、

保護者の方々に情報提供しているところです。

さらに、スマートフォンへの依存が強い場合には、スクールカウンセラーや医療機関への相談につなげるよう支援をしており、こうした取組を通して、家庭や学校等と連携しながら、スマートフォンへの依存による不登校問題の解消に努めていきます。

次に、インターネットを活用して不登校の子供たちとコミュニケーションを取る取組についてのお尋ねです。

県教委では、これまでもＳＮＳや電話を利用した教育相談を行ってきましたが、昨年度新たに、１人１台タブレット端末を活用し、児童生徒がスクールカウンセラーや教職員とオンラインで相談できる体制を整備しました。

これにより、児童生徒の皆さんと画面を通してつながり、顔を見ながら悩みや相談を受け止め、問題を早期解決するよう努めています。

また、不登校の子供たちに、適切な教育機会を確保することも重要ですので、タブレット端末を活用して教材を配付したり、自宅と教室をつないで授業に参加できるようにするなど、ＩＣＴやオンラインの特性を生かした学習支援にも取り組んでいるところです。

県教委としましては、不登校の子供たちが必要とする教育相談や学習支援を受けることができるよう、取組の一層の充実に努めていきます。

次に、不登校特例校の設置についてのお尋ねです。

不登校児童生徒の支援に当たっては、一人一人の状況に応じた学ぶ機会や居場所を確保することが重要であり、不登校特例校は、そのための有効な学びの一つと考えています。

このため、県教委では今後、市町教育委員会や関係機関と連携し、本県の不登校児童生徒の実情やニーズの把握に努めるとともに、不登校特例校に関する課題を明らかにし、設置の可能性について研究していきます。

県教委としましては、今後も児童生徒一人一人の状況に応じた効果的な支援に取り組んでいきますので、皆さんも周りに欠席しがちな友人がおられましたら、ぜひ声をかけていただき、その人の気持ちに寄り添ってほしいと思います。

飯田議員をはじめ、皆さんが安心して充実した学校生活を送られることを願っています。

副議長（二木健治君）

華陵高等学校、小林佳穂さん。

〔小林佳穂さん登壇〕（拍手）

小林佳穂さん

山口県立華陵高等学校、英語科２年の小林佳穂です。

私からは、山口県独自の地方創生施設の取組について、２点質問をさせていただきます。

県独自の地方創生施設といえば、県庁に設置された地方創生テレワークのモデルオフィス「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」が挙げられます。この施設は、県外からのテレワーク移住者の方を対象とした地方創生を目的とするもので、なかなか県内在住の高校生になじみ深いものではありません。

私たちは、地方創生かつ県内の若者のための施設も必要なのではないかと考えました。高校生ならではの視点と「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」からのインスピレーションを受け、考えた一つの案は、学生が利用する公共の自習スペース、学生版「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」をつくるということです。学生のために自習スペースを確保すること、また県内の高校生の学力向上を視野に入れた取組をすることは、地方創生を目指すために必要な魅力的な地域社会づくりにつながると考えます。

現役高校生は、県内の自習スペースに関して

どのような思いを抱いているのか知るべく、周南・下松・光市在住の華陵高校の１から３年生、１０２人にアンケートを取りました。驚いたことに、公共の自習スペースを使いたいと思うと答えた人は７０．６％もいるにもかかわらず、実際に自習スペースを、よく使う、時々使うと答えた人は３８．２％しかいませんでした。

また、どこで自習をしているのかという質問で３番目に多かったのは、カフェや公民館等のスペースを抑えて、家がランクインしています。

このギャップの背景には、自習スペースを利用したいと思えない理由で挙げられた、自習できる施設が家や学校から遠いため、無料で自習できるスペースは騒がしくする利用者がいて集中できないから等の高校生の悩みがあることが明らかになりました。

高校生が利用したいと思える自習スペースの条件をまとめると、駅の近くなど通いやすい立地でＷｉ―Ｆｉやコロナ対策が徹底されており、高校生が払いやすい月額設定で、夜遅い部活帰りでも利用できる自習スペースが理想的であるとの意見が多く寄せられました。特に、県の政策として生徒一人一人にタブレット端末を支給しているため、学習の際、Ｗｉ―Ｆｉを必要だと感じる高校生は多いようです。

このような条件を満たした学生のための自習スペースを確保している自治体は、全国的に珍しいと思います。アンケート結果からも分かるとおり、学生版「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」を待ち望んでいる高校生は多くいます。この提案は、全国に先駆けるアイデアとして「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」に並ぶ名高い金字塔になると確信しています。

そこで、１つ目の質問です。

「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」をはじめとする地方創生施設の増設についての現段階での方針、またＰＲ方法はどのようなものを考えていますか。

そして、２つ目の質問です。

公共の自習スペースはもちろん、高校生の勉学の意欲を向上させるような施設づくりについて、県としてどのようにお考えでしょうか。

以上、２点を質問させていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

副議長（二木健治君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

華陵高等学校、小林議員の御質問のうち、私からは、地方創生施設の増設やＰＲについてのお尋ねにお答えします。

本県の最重要課題である人口減少に歯止めをかけ、地域を活性化していくためには、県内に人をとどめるとともに、県外からの新たな人の流れを創出・拡大していくことが重要です。

このため、県では、コロナ禍を契機に普及が進むテレワークを活用して、都会での仕事を続けながら本県に移住するテレワーク移住や休暇・バケーションを楽しみながらテレワークを行うワーケーションを推進しています。

小林議員がお示しの「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」は、昨年、全国で初めて県庁内に設置をした、テレワーク移住を推進する施設であります。ほかにも、本県の空の玄関口である山口宇部空港内に、ワーケーションの総合案内施設「ＹＹ！ＧＡＴＥＷＡＹ」というものを設置しています。

お尋ねの地方創生施設の増設については、まずはこの２つの拠点施設を核に、市町や民間事業者が設置した、７０を超える関連施設の数を増加をさせていくことにより、都市部テレワーカーの受入れを積極的に進めてまいります。

次に、ＰＲの方法については、様々な機会を捉えて、効果的な手法により設置施設の活用を積極的に促すことが重要です。

このため、施設の開設に併せて、山口県テレワーク・ワーケーション総合案内サイトを開設し、県内でテレワーク等が可能な施設の情報をはじめ、テレワーク移住者の体験談やプロモーション動画などを紹介しています。

また、首都圏等の都市部に向けたＰＲとしては、県内にテレワーク移住をされ、山口ならではの暮らしを満喫されている方を紹介するオンラインセミナーなどを開催し、認知度の向上を

図っているところです。

こうした取組により、「ＹＹ！ＳＱＵＡＲＥ」は、一日平均で２５名以上の方が利用されていますが、その約３割が県外の企業等に勤務されている方となっています。

これからは、テレワークの活用により、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方ができる時代となりますので、高校生の皆さんには、山口県との関わりを大切にしながら、自分の将来の就職や働き方について検討していただきたいと思います。

副議長（二木健治君）

繁吉教育長。

〔教育長　繁吉健志君登壇〕

教育長（繁吉健志君）

高校生の勉学の意欲の向上に向けた施設づくりについてのお尋ねにお答えします。

このたび小林議員が自らアンケート調査を実施し、その内容を分析してまとめ、調査結果を踏まえた見解を述べられたように、これからの社会に求められる資質能力を身につけていくためには、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に学んでいくことが大変重要であると考えています。

このため県教育委員会では、全ての県立学校に１人１台タブレット端末を整備して自主的な学びを促したり、コミュニティ・スクールを導入して体験的・探究的な学びを進めたりすることで、高校生が自ら学びに向かうことができる環境を整え、学習意欲の向上に努めているところです。

お尋ねの高校生の勉学の意欲を向上させるような施設づくりについては、各学校の自習スペースの充実に努めるとともに、公立図書館や公民館等の活用についても、市町等に働きかけてまいりますので、こうした施設も上手に活用しながら、自分の興味や関心に基づいて主体的に学んでほしいと考えています。

県教委としましては、高校生の皆さんが情報を活用する力や課題を解決する力など、これからの社会に求められる資質能力を身につけられるよう、意欲を高めて勉学に取り組んでいくことを期待しています。

副議長（二木健治君）

下関短期大学付属高等学校、古谷亜桜祈さん。

〔古谷亜桜祈さん登壇〕（拍手）

古谷亜桜祈さん

下関短期大学付属高等学校２年、古谷亜桜祈です。

私からは、高齢化社会による山口県の救急活動について、２点御質問させていただきます。

令和２年度の厚生労働省資料によると、令和２年度の全国の病院に従事する医師の平均年齢は４５．１歳、診療所に従事する医師の平均年齢は６０．２歳となっています。山口県の医師の平均年齢は５３．３歳で全国１位です。これらは、山口県内で医師として働く人材が少ないことと同時に、医療現場の戦力の低下も懸念される事項となります。

山口県は既に約３５％も高齢化率が進んでいることが分かりました。全国の平均よりも１０年早く高齢化が進んでいるのです。医師の高齢化や技術の継承が難しくなり、閉院せざるを得ない状況になった場合、通院されている患者さんにとっては大きな不安となるでしょう。

そこで質問です。

高齢化社会へと進んでいく中、県内の医療従事者の仕事に若者が魅力や関心が持てるようなイベントなどの取組を考えておられますか。

２点目は、救急車による救命活動についてです。令和２年度において、山口県では救急車は出動要請を受けてから現場に到着するまで約９

分、患者さんが治療を受け始めるまでに平均４０分かかるそうです。

２０２０年以降は新型コロナウイルス感染症が全国的にも広がり、救急車の需要が高くなりましたが、現在においては感染対策のマスク生活の影響もあるのでしょうか。熱中症が増えてきています。

今年の７月、８月の２か月間で熱中症によって救急車が利用された回数を調べた結果、山口県では４６０人が利用しています。この人数の半数以上の方が高齢者であることが分かりました。

ほかにも救急車の利用で最も多いのが急病で、次に一般負傷、３番目に交通事故です。このことから、高齢者だけにかかわらず幅広い年代の利用があることが分かります。

しかし、先ほども申しましたとおり、高齢化社会という視点から高齢者の救急車利用率が増えてくると予想されます。また、高齢の方からすると、治療開始までの４０分間はとても長く、不安な時間だと思います。

そこで質問です。

少しでも早く現場に救急車が到着し、安心して治療が受けられるように、必要とされる地域に消防署の出張所を設置することはできないでしょうか。特に過疎地においては重要と考えます。

御家族が離れていらっしゃる方々にとって、救急隊員の方々は、安心できる存在だと思います。今後、誰もが山口県で安心して暮らしていけるよう、以上２点について御質問させていただきました。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

副議長（二木健治君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

下関短期大学付属高等学校、古谷議員の御質問のうち、私からは、山口県内の医療従事者の人材確保についてのお尋ねにお答えします。

私は、県民の皆さんが、住み慣れた地域で健康で安心して暮らしていくためには、医療提供体制を充実させること、このことが大変重要であり、とりわけ将来の山口県の医療を担う若手医師の確保が必要と考えています。

このため、県では、山口大学医学部や県医師会と連携し、県内で一定期間勤務すると返済免除となる奨学金制度を設け、若手医師の確保と県内定着に努めています。

また、大学卒業後から専門医療の知識・技術の習得まで、県内で一貫したキャリアアップができる研修体制を整備しており、医学生を対象とした合同説明会の開催等を通じて、本県の充実した研修体制の魅力を積極的に発信しているところです。

こうした取組により、本県の医師数は、令和２年時点で３，４９１人、この１０年間で１０８人増加しているところですが、古谷議員がお示しのように、医師の平均年齢は全国一高いことから、若い方々が、医療に魅力や関心を持ち、医師を目指していただくことが必要です。

このため、県では、より多くの高校生が、地域医療を学び考えることができる機会を得られるよう、やまぐち地域医療高校生セミナーを毎年開催しているところです。

先月開催したセミナーでは、萩市の離島で働く医師の活動や、地域医療の現状課題を学び、理解を深めていただいたところであり、引き続き、こうした機会を通じて、若者の医療に対する関心を高めてまいります。

また、医学生や看護学生等を対象としたやまぐち地域医療セミナーを県内各地で開催し、地域に魅力を感じ、地域に寄り添った医療を提供する、高い志を持つ医療人材の育成に取り組んでいます。

さらに、県内の高校に出向いて、本県の医療提供体制の現状や修学資金制度の概要、医療機関での勤務事例を紹介するなど、医療に携わる仕事に興味を持ち、医師を目指す若者を増やす取組を一層進めてまいります。

私は、県民の皆様が、安心して暮らせる医療提供体制の充実に努めてまいりますので、古谷

議員をはじめ、より多くの若者の皆さんに、地域医療に関心を持っていただくことを期待しています。

副議長（二木健治君）

内海総務部長。

〔総務部長　内海隆明君登壇〕

総務部長（内海隆明君）

救急車による救命活動についてのお尋ねにお答えします。

高齢者をはじめとする、県民誰もが住み慣れた地域で健康で安心して暮らしていけるよう、その病状に応じ、迅速かつ適切な救急医療を提供できる体制を確保することは、極めて重要です。

お尋ねの消防署や出張所については、市街地の区域内の人口に応じて、目標とすべき整備水準を国が定めており、消防事務を担う各市町において、これを目標としつつ、道路事情や建築物の構造など、地域の実情も勘案しながら、必要な地域に設置をしているところです。

こうした中で、中山間地域や有人離島を多く抱えている本県の特性を踏まえて、県では、医師や看護師が同乗するドクターヘリや消防防災ヘリ「きらら」を運航し、命に関わる重篤な患者に対する迅速な初期治療の実施や、救命救急センター等への搬送の体制を確保しているところです。

加えて、県では、急な病気やけがをした際に、救急車を呼ぶべきかどうかなど、医師や看護師等へ２４時間３６５日電話相談できる救急安心センター事業、いわゆる「＃７１１９」を実施しており、住民の不安軽減だけでなく、救急車の適正利用、ひいては救急搬送の時間短縮にもつなげています。

県としては、過疎地の高齢者をはじめ、県民の暮らしの安心・安全を守るため、引き続き、市町や各消防機関等とも緊密に連携しながら、必要な救急医療が迅速かつ適切に提供できる体制の確保を図ってまいります。

副議長（二木健治君）

山口農業高等学校、三上祐飛君。

〔三上祐飛君登壇〕（拍手）

三上祐飛君

山口県立山口農業高等学校２年生の三上祐飛です。

私からは、生活習慣病への対策について、２点質問させていただきます。

１点目は、生活習慣病に対する県民の関心を高めることについてです。

山口県の健康増進課のホームページによると、県内の全死因の半数以上が生活習慣病に関連するものでした。

しかし、この生活習慣病に関する現状を理解し、自身や周りの人の生活習慣の改善につなげることができている人は、特に若い世代においては多くないように感じます。

県民に生活習慣病に関する山口県の現状を広く知ってもらい、一人一人の生活習慣の改善につなげてもらうことで、健康寿命を延伸し、少子高齢化が進む中にあっても、活力あふれる山口県をつくっていくことができるのではないでしょうか。

私たち若い世代も、生活習慣に関する関心を高め、自分自身の健康を守るとともに、周りの親や祖父母の世代の方にも長く健康でいてもらえるよう力になりたいと思っています。

そこで、１つ目の質問です。

若い世代に対して、生活習慣病に関する山口県の現状を広く知らせるために、ユーチューブやＳＮＳを活用し、情報発信をより積極的に行うことはできないでしょうか。

２点目は、県民の生活習慣の改善に対する支

援についてです。

山口県では、「誰もがやまぐちでいつまでもいきいきと暮らせる健康づくり」を目標に、県民の健康づくり対策に取り組んでいます。

また、健康やまぐちサポートステーションのウェブページで、健康づくりや生活習慣病に関する様々な情報を発信しています。

しかし、厚生労働省の令和元年国民健康・栄養調査によると、４人に１人が食習慣・運動習慣を、関心はあるが改善するつもりはないと回答しています。改善するつもりがある人については、健康な食習慣や運動習慣定着の妨げとなる点として、仕事（家事・育児等）が忙しくて時間がないことと回答した割合が最も高くなっています。

このような状況の中で、生活に追われて健康意識を持てない、健康を守れないといった人たちに働きかけを行い、健康格差を縮小していくことがますます重要になってきています。

私たちは、一生懸命働き、生活に追われる人が健康を失ってしまう山口県にはなってほしくないと思っています。

そこで、２点目の質問です。

家庭や地域で、若い世代と親や祖父母の世代が一緒になって生活習慣の改善に取り組むイベントをこれまで以上に充実させることはできないでしょうか。

私たちは、親や祖父母、身近な大人のことを大切に思っていますし、健康でいてほしいと思っています。しかしそれを直接伝えることは、恥ずかしく感じ、なかなかできていません。

生活習慣の改善に取り組む活動をきっかけとして、私たち若い世代から、健康を大切にしてほしいこと、生活習慣を見直してほしいことなどを伝えることができるのではないかと考えています。人とのつながりの中で、山口県民が自身の健康や生活習慣に関心を高める機会となってほしいと思っています。

以上、２点について質問させていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

副議長（二木健治君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

山口農業高等学校、三上議員の御質問のうち、私からは、県民の生活習慣の改善に対する支援についてのお尋ねにお答えします。

本県においては、がん、心疾患、脳血管疾患の三大生活習慣病が死因の半数を占めていることから、県民誰もが生涯を通じて、健やかに心豊かに生活するためには、生活習慣の改善など、主体的に健康づくりに取り組むことが重要と考えています。

また、健康づくりは、無理なく楽しく継続的に取り組むことが大切であることから、三上議員のお示しのとおり、家庭や地域で、若い世代と親や祖父母の３世代が一緒になって取り組める環境の整備が必要です。

このため、県では、健康づくりのきっかけとなるよう、専用サイト「健康やまぐちサポートステーション」を開設し、県内で開催される健康講座やウオーキング大会など、家族と一緒に楽しめるイベント情報を広く発信しています。

また、専門家等から直接学ぶ機会として、健康づくりに関するフォーラムを実施しており、今月２６日には、生活習慣病の特徴や予防をテーマに、山口市で開催することとしています。

このフォーラムに、ぜひ多くの方々に家族と一緒に参加をしていただき、御自身の生活習慣を見直し、家族ぐるみでの健康づくりにつなげていただきたいと考えています。

さらに、県民の皆様が日常的に、気軽に楽しみながら健康づくりができるよう、県では、スマートフォンを活用した、やまぐち健幸アプリを開発し、現在５万ダウンロードを超えるなど、多くの方に利用いただいています。

このアプリは、年代、地域、企業、家族、友人単位で、ゲーム感覚で歩数を競い合う機能があり、こうした機能を活用した取組を一層充実してまいります。

人生百年時代と言われる中、私は、誰もが健康で元気に活躍できる社会の実現に向けて、県

民の皆様の主体的な健康づくりを支援してまいります。

若い世代は、生活習慣が定着する重要な時期です。三上議員をはじめ、高校生の皆さんも、身近な方を誘って、自らの健康づくりに取り組んでいただきますようにお願いします。

副議長（二木健治君）

弘田健康福祉部長。

〔健康福祉部長　弘田隆彦君登壇〕

健康福祉部長（弘田隆彦君）

生活習慣病の周知と対策についてのお尋ねのうち、県民の関心を高める取組についてお答えします。

生活習慣病の予防には、病気と適切な生活習慣に関する県民の理解を深めていただくことが重要であることから、県では、生活習慣病の現状や健康づくりの基礎知識等をホームページに掲載し、広く周知に努めているところです。

周知に当たっては、三上議員のお示しのとおり、若い世代に、病気について理解していただくとともに、若い皆さんのお力もお借りしながら取り組んでいくことが必要と考えています。

このため、県では、より多くの若い世代に関心を持っていただけるよう、ホームページに加え、今後は、若い方が日常的に利用しているＳＮＳ等を活用し、生活習慣病に関する情報発信の充実に努めてまいります。

また、県内の大学生等を対象に健康に関する知識を学び、家族や友人等へ広める役割を担う、やまぐち健康応援学生サポーターを養成しているところです。

このサポーターは、自ら健康づくりを実践するだけでなく、同世代の健康意識の向上や、家族等の生活習慣の改善などの啓発活動にも取り組んでいただいており、そのさらなる拡充に努めてまいります。

県としては、県民挙げて健康づくりを実践することができる環境づくりに向け、今後とも、情報発信に積極的に取り組んでまいりますので、三上議員をはじめ、高校生の皆さんも御協力いただきますようお願いをいたします。

副議長（二木健治君）

高水高等学校、尾﨑純哉君。

〔尾﨑純哉君登壇〕（拍手）

尾﨑純哉君

高水高等学校２年、尾﨑純哉です。

私からは、観光資源をさらに活用する具体的な取組に関して、２点ほど質問させていただきます。

まず、ＳＮＳでの観光地の情報発信についてです。山口県には、萩反射炉や松下村塾など５か所の世界遺産があります。

しかし、特に若い世代には山口県に世界遺産があることを知らない人が多くいると思います。その魅力は十分に発信されているのか疑問に思います。

そこで、ＳＮＳの運営を高校生とともに行うことを考えました。高校生の意見を取り入れながら発信することで、若い世代により親しみやすく、効果的なアプローチができると考えます。

また、一つの具体的な取組としては、県内の高校や大学などで、山口県を活性化させるイベントや企画のコンテストを行うことを考えました。

優秀な案は、実際に県の取組の一つとして採用するとよいと思います。県の活性化に高校生や大学生が携わることで、県民としての意識が芽生え、ふるさとである山口県に愛着が湧きます。さらに県の活性化について興味を持ち、積極的に取組に参加する若い世代が増えることで、次世代を担う人材の育成にも役立ちます。

そこで、１つ目の質問をさせていただきます。

特に若い世代が歴史ある観光資源に興味を持ってもらうためには、実際にＳＮＳなどで若い世代の視点で魅力を発信することが必要だと思いますが、そのような取組について、具体的にはどのようなことをお考えでしょうか。

次に、観光地への交通アクセスについてです。

例えば、岩国錦帯橋への交通アクセスです。現在、錦帯橋へ行くためには様々な交通手段がありますが、ここではバスを例に挙げたいと思います。

岩国市の観光ホームページによると、岩国駅と錦帯橋を結ぶバスは１０から１５分毎に運行されています。しかし、錦帯橋へ行くバスは途中経由地が多く、時間がかかります。

そこで錦帯橋だけに限らず、特定の観光地にシャトルバスや循環バスを運行するとよいと考えます。乗換えが少ないほうが観光客の負担も少なくなり、気軽に訪れることができます。また、空港から観光地への乗合タクシーなども、観光客にとっては交通手段が増え、便利になると思います。

そこで、２つ目の質問をさせていただきます。

観光地への交通アクセスの利便性を高めるために、シャトルバスや循環バスの開通、乗合タクシーの運行などが挙げられますが、このような交通アクセスの充実について、今後、どのような取組をお考えでしょうか。

以上、２点に関して質問させていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

副議長（二木健治君）

村岡知事。

〔知事　村岡嗣政君登壇〕

知事（村岡嗣政君）

高水高等学校、尾﨑議員の御質問のうち、私からは、若い世代の視点での魅力発信についてのお尋ねにお答えします。

本県には、お示しの萩市の世界遺産など、明治維新胎動の地としての多くの歴史的文化遺産をはじめ、豊かな自然景観や心安らぐ良質な温泉、さらには、四季折々の多彩なグルメなど、全国に誇れる魅力的な観光資源にあふれています。

私は、こうした本県の魅力的な観光資源を、もっと多くの若者に知っていただきたいと考えており、そのためには、若い世代の視点を踏まえた効果的な情報発信が大変重要です。

このため、県では、県内在住の２０代の若者を本県観光の魅力を伝えるライターとして起用し、若い世代の視点での旅行記事をウェブサイトに掲載するとともに、ＳＮＳを活用し、若い女性の目線による、本県の様々な観光情報を積極的に発信しているところです。

また、山口県立大学の学生をＳＬやまぐち号のＳＬアテンダントに任命し、列車内でのおもてなしや沿線の観光案内を行うとともに、学生ならではの視点で観光パンフレットを作成するなど、若い世代と連携した取組を実施しているところです。

さらに、今年度新たに旅行客の性別や年齢層ごとに異なるＳＮＳ広告を発信する取組を実施しており、若者に対しては、その趣味や嗜好などに即して、本県の旬な観光情報を効果的に発信することとしています。

加えて、県では、毎年大学生のインターンシップを受け入れており、その中で若い世代に親しみやすく、関心の高まるＰＲ手法等についての意見交換を行い、効果的な本県の魅力発信につなげているところです。

私は、御提案のアイデアも参考とし、今後とも若い世代の視点をしっかりと踏まえながら、積極的かつ効果的な情報発信に取り組んでまいります。

尾﨑議員をはじめ、高校生の皆さんにも、若い豊かな感性を生かして、ＳＮＳなどでどんどんと山口県の魅力を発信していただくようにお願いします。

議長（柳居俊学君）

三坂観光スポーツ文化部長。

〔観光スポーツ文化部長　三坂啓司君登壇〕

観光スポーツ文化部長（三坂啓司君）

観光地への交通アクセスについてのお尋ねにお答えします。

多くの魅力的な観光地を有する本県において、こうした観光地へのバスや乗合タクシー等による交通アクセスの確保、充実を図ることは、観光客のみならず、地域住民の利便性を高める上でも大変重要です。

このため、現在、世界遺産を有する萩市や絶景等の観光地を有する長門市においては、高速バスやジャンボタクシーによる新山口駅からの直行便が運行されるなど、各市町による観光地への交通アクセスの充実に向けた取組が行われています。

また、県としても、観光客の広域での周遊促進を図るため、湯田温泉から角島大橋や元乃隅神社などを巡る観光周遊バスの運行や、ＪＲとの連携によるクルージングバスの実証運行を支援しているところです。

さらに、今年度、長門市や美祢市と連携し、山口宇部空港と長門湯本温泉や道の駅おふく等を直結する乗合タクシーの実証運行を行うなど、乗換えが不要で利便性の高い、新たなルート開設にも取り組んでいます。

加えて、山口宇部空港と下関駅を結ぶ空港連絡バスが廃止されたことに伴い、これに代わる乗合タクシーの運行を支援しているところであり、空港から唐戸市場や城下町長府などへの観光客の交通アクセスを維持・確保しているところです。

県としては、今後とも観光客の一層の利便性向上に向け、県内観光地への交通アクセスの充実に積極的に取り組んでまいります。

議長（柳居俊学君）

これをもって、高校生議員による質問を終わります。

日程第４　意見書案

議長（柳居俊学君）

日程第４、意見書案、「交通事故減少に向けた自転車道整備を求める意見書」を議題といたします。

これより、提案理由の説明を求めます。

野田学園高等学校、村岡将多君。

〔村岡将多君登壇〕（拍手）

村岡将多君

野田学園高等学校２年、村岡将多です。

私たち山口・防府地域は、交通事故減少に向けた自転車道整備を求める意見書を提案いたします。

私たち高校生が頻繁に利用する移動手段として自転車がありますが、自転車と車両、歩行者の接触事故が県内でも多数発生しています。県内の車道を通行する際、自転車と車両の距離が近く、危険な場所は少なくありません。また、歩行者と自転車が同じ一つの歩道を利用していることが原因での接触事故が多いことが挙げられます。特に、学校周辺の道路が狭い場合が多いことや、交通量の多い道路に面している学校が多く、通学時間には危険な場面が度々見られます。

そこで、これらの問題を解決するために、私たちは自転車道の整備を提案いたします。自転車が安全に通行できる道路整備を求めることで、歩行者や自動車の安全確保にもつながります。特に、学校周辺や交通量の多い道路において、歩行者、自転車、自動車それぞれが安全に通行できる道路の整備を行うことで、老若男女問わず安心・安全に住みやすく、生活しやすい町になると考えたからです。

また、近年、地球温暖化の進行する中で、二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として自転車の利用は注目度が高まっています。自転車の利用を促進していくためにも、歩行者と自転車が分離された通行空間の整備に取り組む必要があります。

そのほかにも、公共交通機関が充実していな

い地域を多く抱える本県では、自転車を移動手段として選択する方は多くなっています。さらに、高齢化が進む我が県で、路線バスの廃止等、地域公共交通サービスをめぐる環境が厳しさを増す一方、高齢者の運転免許証返納者数が年々増加し、高齢者で自転車を移動手段として利用する方は年々増加傾向になると私たちは考えます。県内の交通事故による死亡者、負傷者ともに高齢者が多く、一層の注意が必要なものとなります。

これから自転車を利用する人が、安全にルールを守って利用できるように、そして、普段から通勤・通学や移動手段として自転車を利用する方が、より安全で便利な二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として利用できるよう、自転車道の整備を求めます。

令和４年１１月１日、第８回やまぐち高校生県議会議員一同。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

ただいま議題となっております意見書案につきまして、直ちに採決に入ります。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（柳居俊学君）

起立全員であります。よって、意見書案は原案のとおり可決されました。

どうぞお座りください。

日程第５　高校生議員代表による決意表明

議長（柳居俊学君）

日程第５、高校生議員代表による決意表明の件を議題といたします。

決意表明に関わる発言の申出がありますので、これを許します。

大津緑洋高等学校、鴨川依乃梨さん。

〔鴨川依乃梨さん登壇〕（拍手）

鴨川依乃梨さん

高校生議員代表、大津緑洋高等学校日置校舎３年、鴨川依乃梨です。

本日は、第８回やまぐち高校生県議会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

事前学習会や本日の議場での質問など、普段の学校生活では経験できない多くの学びを得ることができました。

８月に開催された事前学習会の中で、山口県の最重要課題は人口減少と少子高齢化であるというお話を伺いました。山口県の人口は昭和６１年以降減少が続いています。

国においても、平成２０年をピークに人口は減少しており、令和３５年には、人口が１億人を割り込むと推計されています。こうした中、山口県では、やまぐち維新プランで、妊娠・出産、子育てと続く切れ目のない支援を行っておられます。それもあってか、令和３年の山口県の合計特殊出生率は１．４９で、全国平均の１．３０を上回っています。一方、ＹＹ！ターン支援など、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた山口県への移住促進に取り組んだり、やまぐち維新プランにより働きやすい環境を整えているにも関わらず、国立社会保障・人口問題研究所による第８回人口移動調査では、山口県のＵターン率は全国平均の４３．７％を下回る４０．０％でした。

山口県が住みやすく働きやすい、そして、子育てしやすい地域であるという認識が県内外に浸透していないのか、現状は転出超過が続いています。

私たちは情報発信にたけた世代です。私たち高校生が山口県の魅力をしっかり学び、体験し、実感することで、卒業後にそれぞれの場所で山口県の持つ多彩な魅力を広く伝えられればと思います。

今年４月に民法が改正され、成年年齢が１８歳に引き下げられました。私たちは在学中に成年を迎え、大人として社会に出ていくことになります。

昨年の衆議院議員選挙では、山口県の投票率が最下位であったとのニュースを見ました。中でも２０歳以下の投票率は著しく低く、私たち若者が政治を自分ごととして捉え、選挙に積極的に参加する必要があると感じました。私も一人の社会人として、必ず選挙に参加します。

結びに、山口県民の一員として持続可能な未来社会の創出に貢献し、「活力みなぎる山口県」の実現のため、積極的に尽力し続けることを宣言し、決意表明とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

議長（柳居俊学君）

以上をもって、本日のやまぐち高校生県議会に付議された事件は全て議了をいたしました。

議長閉会挨拶

議長（柳居俊学君）

閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

高校生の皆さん、本日は大変お疲れさまでございました。

皆さんのはつらつとした発言や真剣なまなざしで議論に耳を傾けておられるお姿は、誠にすばらしいものがございました。

また、どの御質問や御提案も山口県が直面をする課題について高校生同士が議論をし、真剣に向き合う中で生み出されたものであろうと大変心強く感じたところであります。

高校生議員の皆様には、今後の高校生活がより充実をしたものとなるようお祈りをしますとともに、これからの山口県のために、ぜひとも様々な面で御活躍をいただけることを念願をいたしております。

終わりに、本日の高校生県議会に御参加を頂いた高校生の皆さん、御協力を頂きました各学校の先生方、保護者の皆様方、また、村岡知事をはじめとする県執行部の皆様に改めて御礼を申し上げ、閉会の御挨拶といたします。

議長（柳居俊学君）

これをもって、第８回やまぐち高校生県議会を閉会をいたします。

皆様、大変お疲れでございました。ありがとうございました。

午後３時３１分閉会